

諫早市教育委員会議事録
令和 7 年第 5 回（5 月定例）

令和 7 年第 5 回（5 月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和 7 年 5 月 2 8 日（水）
1 6 時 0 0 分～1 6 時 5 0 分
- 2 場 所 諫早市役所 7 階 会議室 7－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 池 政信
学校改革推進室長 青木 信高
学校教育課長 山口 隆
生涯学習課長 松原めぐみ
- 5 議 題
報告第 1 2 号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委
嘱について）
議案第 7 号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて

議事録署名人の指名

山口委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

報告第12号は人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和7年第4回（4月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

今年度の教育委員会のテーマを「挑戦と創造」、「明るく 楽しく 面白く」としている。これを徹底していきたいと思う。今こそ「挑戦と創造」を「前例主義」や「横並び主義」の脱却、令和の長崎スクールの実現としている。挑戦とは、戦い挑むこと、新しいことを試みることで、失敗は織り込み済みの挑戦ということで、失敗を恐れずにどんどん挑戦してもらいたいと思っている。創造とは、新たに造ること、無から有を生むこと、新しい学校文化の創造を意味することだが、新しい学校のスタイルというのは、教育委員会もそうだが、学校の方でも構築していただきたいと思う。

カギを握るのは、～明るく 楽しく 面白く～ということで、これは学校経営だけではなく、授業や学級経営においても、全教職員が今年度のテーマを意識しながら教育をしてほしい。面白い授業を

しようと全教職員が思うと、授業が生き生きと、子供たちの学びに繋がっていくと思う。学級経営についても「明るく 楽しく 面白く」が、理想的なことだと思う。昨日、市町教育委員会の教育長が集まったところでの会で、働き方改革、働きがい改革の中で教員採用試験をどうするかの話が出た。そこで私は、教員の働き方改革あたりで言われているブラック的なことが世間一般に浸透しているが、本当はそうではなく、教員というのは本当にかげがえのない職業であって、子供たちの成長を手助けするという崇高な営みだと。だからそういった面では胸を張って、誇りを持って職業に就く、教職の道を歩むというのは大事なことである。

最近の教員採用試験を見ると、志願者が減っている。競争率も減っているが、今年は少し持ち直した。それは大学3年生からも受けることができる。つまり大学3年のときに合格通知をもらっていると大学生活も有意義に使えるということもある。そういう県教委の取り組みで5月に試験をするという今までにない良い取り組みをしている。長崎県が一番早いということである。5月に試験をする取り組みをも良しとし、また県教委のいろんな工夫も私達は良しとしながらも、現場サイドではどんなことができるかということ、私はやっぱり教師が生き生きと、子供たちの前で「明るく 楽しく 面白い」授業をやると、必ずや憧れが生まれるので、あの先生のようになりたいといった希望が持てるような授業をしてもらい、そういう存在であってほしいと思う。ただ小学校は小学校で中学校は中学校で高校では高校で、一生懸命「明るく 楽しく 面白く」を実行すると、志願者が増えると思い、校長会や教頭会で話をしている。これを徹底していききたいと思う。全ての学校で全ての先生方が明るく、楽しく、面白く、子供たちにもそれを呼びかけたいと思う。

2番目に学校の設立ということで、特に明治初期にどんな学校が、いつ生まれたのか調べてみた。

全ての学校で紡いできた歴史に敬意を払い、さらに挑戦と創造で発展させていきたい。これは小学校の歴史と言ってもいいと思うが、1871年、明治4年に文部省が設置された。このときは津田梅子、岩倉使節団の一員として渡米しており、帰国後、女子英学塾、後の津田塾大学を設立している。1872年、学制が交付される。これはフランスの教育制度を手本とした統一的な教育制度である。東京に師範学校が設立された年ですが、有喜小学校と本野小学校がこの年に生まれている。1873年は小学校の新設ラッシュで、真津山小、長里小、森山西小、喜々津小、諫早小、小野小、森山東小、飯盛西小、飯盛東小、遠竹小、長田小、湯江小とたくさんの学校がこ

の年にできている。1874年には、東京女子師範学校ができ、伊木力小ができしており、1875年に真崎小、1876年、明治9年に大草小、1877年、明治10年に東京大学が設立され、みはる台小学校ということで、ご覧になっておわかりのように、それぞれの地域にできている。

当時も人口の偏在はあったかもしれないが、今回、長里小と遠竹小が、153年の歴史を閉じたのは、非常に痛恨の極みだが、今後の義務教育学校が150年以上続くように、200年も300年も続くような学校を作りたいと思い、今日はこの後、基本設計を発表したい。小学校の歴史を見ると児童生徒数減で苦戦しているところも結構あるが、できるだけいろんな手を使って盛り上がっていくようにしたい。一方では、子供たちがたくさんいて、校舎が足りないというところもある。一番の例は御館山小学校で、仮設校舎を作らないといけないという問題がある。要するに諫早駅周辺にたくさんのマンションが建っているので、さらに加速されていくというようなことで、この歴史を見るといろいろ思うところがあった。

3番目、5月の行事だが、中学校の体育大会が18日に全校で実施された。天候にも恵まれてよかったと思う。小学校の運動会は25日の日曜日にあり、予定していた23校のうち22校は日曜日に行われた。前の日は雨が降ったが、翌日は非常に良い天候であったため出きたが、喜々津小学校だけが27日に行った。しかし学校教育課長も見に行ったが、非常に観客も多かった。喜々津小学校はなぜ延ばしたかというのと、グラウンドの状態がまだそこまで回復しなかったということである。子供たちは非常に輝いた。子供たちが全員、中学校も小学校も躍動し輝いた。その写真の中にある運動会のチェッコリ玉入れがあって、玉入れてまた踊り、笛がなったらまた玉を入れるというもので、この小学校1、2年の姿が非常にかわいくて私もその光景に感動した。

健康診断が始まっている。学校教育法第12条、学校保健安全法により児童生徒は6月30日までに、これは法律で決まっているので、全国でこのようにしている。それから教職員については、設置者が決める適切な時期に全員受診するようになっている。今ちょうど健康診断により、お医者さん方には大変お世話になっている。

諫早市総合防災訓練が18日本明川河川敷で、国、県、市、警察、消防、自衛隊など約千人が参加した。前日雨が降って、ぬかるみというところもあったが、水害、地震を想定しての緊迫感あふれる訓練であった。そこに建物火災の消火訓練の写真を載せているが、ヘリコプターで救助する訓練などもあり、こういう災害がないことを

祈るけれども、あったときには万全の備えをしなければならないと自覚した。

一番左上に玉ねぎ贈呈式の写真を載せているが、20日、JA長崎県央玉ねぎ部会から玉ねぎ1トンを学校給食に贈られた。早速、鶏肉とレバーのアーモンドがらめとして提供した。料理名を聞いただけでも美味しそうな感じがした。

それから義務教育学校の基本設計を発表した。21日の市議会全員協議会で小長井地域において計画している小中一貫の義務教育学校の基本設計案を示した。

第45回、野呂邦暢さんの菖蒲忌が25日諫早図書館で開催された。「野呂さんと叔父山口善三さん」と題して、善三さんの長男山口史彦さんと野呂文学研究者の中野章子さんが対談した。写真にあるように、山口史彦さんは野呂さんの叔父さんということで、叔父さんの人柄などを語っていただき、非常に良かったと思っている。

4番目、私が最近実感する言葉で「赤い炎の出ている炭火に接していなければ、木炭は燃えない」常に赤い炎を出す存在でありたい。

「学校でも教育委員会でも、管理職が一番勉強しなければならない」、これは私の心の中にある怠け心と戦って、私自身の戒めとしている言葉である。「自分が勉強しなければ人はついてこないよ」という気持ちが自分自身にないと、つい怠けてしまうので、そこに少しの戦いということである。

「正しいことを言うときは少し控えめにする方が良い。正しいことを言うときは相手を傷つけやすいものだ」と気づいているほうがいい。」これは吉野弘の「祝婚歌」ということで、特に教育の世界では正しいことをぱっと子供たちにも言うけど、それで追い詰めてしまうと、子供たちもくしゅんとなったり、また反撃したりするので、ほどほどにそれを言うのも必要なのかと。あまり上からワースと言わない方がいいんじゃないのかなということである。

「手練手管を駆使して奇策を弄して、付焼刃の成功を収めたとしても、地に足の着かない栄華が長く続いたためしがない。大切なことは正しい道を踏みしめて、一步一步前に進むことだ。」これは稲盛和夫さんの『一日一言』という言葉です。「今の世界のリーダーはどうでしょうか」というようなことを書いている。

「お詫びの極意は、すぐに、自分から、真剣に、詫びることです。」これは「生きる幸せに気づく 五つの心」奈良薬師寺の管主、安田瑛胤さんの本から取った。

「すぐに自分から真剣に」、よく報道で偉い人が言い訳がましく会見している姿が映し出される。すぐに自分から真剣に詫びること

です。

「すべて手持ちのものを最善に生かすことが、人間的叡智の出発といえる。教育ももとより例外ではない。」『教師のための一日一語』森信三。今の手持ちの人材で、先生方が各学校で人事異動があって配置され、それをどう活かしていくかというのは、指導者の管理職の力量ではないかということで、これは先生方用に書いたものですのでそういうことを言ったわけです。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

一番のテーマのことにに関して、昨日、分科会で不登校対策についていろいろと議論をしてきた。その中でなかなか何も結論が出ないままでしたが、この中の「明るく 楽しく 面白く」というコンセプトの意義を今教育長からお話を伺っていて、何よりも、子供たちの先輩である大人たちが学校や地域や家庭で、この「明るく 楽しく 面白く」生きている姿を見せるのが一番の対策だと改めて思った。

[教育長]

大人が楽しくしている姿が子供たちにはいいのではないかと

[委員]

教職員の数について、諫早は十分間に合っているのか

[学校教育課長]

数に関してはギリギリ足りているが、既に病気になってお休みになり、心の病で、代替を入れていくことをし始めている。

[教育長]

一応配置は足りたということです。ただ、途中からのいろんな状況になったときに、今のところ大丈夫ですが、ギリギリ配置されているところです。

[委員]

子供に対して先生の数も決まっていると思うが、余裕を持った配置はできないのか。病気や体調を崩し、急なことは絶対あると思うので、余裕を持った先生がいたら子供たちにとってもプラスになると思う。

[学校教育課長]

明日から県の課長会があるので言おうと思っていることは、フルで働くことは無理だけど短時間ならいいという潜在はいる。その方たちをうまく活用する制度を作ってもらえないかということを訴えたいと思っている。そしたら学校現場も働きたいと願っている方に

とっても Win-Win なのでそのあたりは訴えてこようと思っている。

[委員]

素晴らしいことです。昨日、私も不登校問題での研修だったんですが、先生をサポートする人を何か雇えないかという話をしていた。学校の先生の数が増やせないのであれば、サポートする人を雇って学校に何人か配置できれば先生たちの負担が少し軽くなり、不登校にも少し優しくできるのではないかという話をしていた。

[学校教育課長]

先ほど教育長の話で、試験の改革が進んでおり、大学3年生も今年確かに受けた人がたくさんいるけれども、今年合格すれば来年度1次試験を免除する制度になる。そうすると、じっくり現場に入って研修ができる。そこを活用していきたいということです。まずは、長崎大学を考えているという話を聞いている。こちらで就職したいという学生を戻って来らせて研修をさせる。それを担任補助としてということが一番いいと思う。

[教育長]

どちらにもメリットがある。

議 事

議案第7号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて
学校教育課長 説明

《学校教育課長の説明に対する意見》

質問・意見なし

可決

《教育総務課長からの報告》

小長井地域義務教育学校基本設計について

《教育総務課長からの報告に対する質問》

[委員]

体育館には空調が入るのか

[教育総務課長]

整備する方向で予定している。

[委員]

理科室のところにあった初等、中等、高等は、低学年、高学

年、中学校ということか

[教育総務課長]

区割りは、現在検討している。例えば義務教育学校であれば、学年区割りを4、2、3であるとか4、3、2にできるため、一応それを初等部、中等部、高等部と呼ぶことにしているので、そう記載している。

[委員]

校舎の配置で1階が1年生から4年生で3階が5年生から9年生になっているが、これは例えば10歳までと10歳からというのは発達段階が違ってくるということを意識して分けているのか。

[教育総務課長]

5、6年生は、中学生、高等部と一緒に部活などもでき、また、できるだけ自分たちが高等部になったときのお兄さんお姉さんの動きを見ることができるよう同じフロアにしている。

《学校教育課長からの報告》

諫早市立学校で発生した事案の報告について

《学校教育課長からの報告に対する質問》

[委員]

偶発的な事故ということによいか

[学校教育課長]

いじめとかではなく、偶発的なものです。

[委員]

2人とも普通に過ごしているのか

[学校教育課長]

同じ学校で、なるべく動線が合わないよう配慮されたもとで過ごしている。

《生涯学習課長からの報告》

令和7年度「少年の主張」諫早市大会開催要項について

《生涯学習課長からの報告に対する質問》

[委員]

毎年言っているが、「少年の主張」の名前を変えなければいけないと思う。中学生の主張だと思う。実際に見に行くと女性しか出ていない。これは全国規模であるが、ぜひお願いしたいと思う。

[生涯学習課長]

全国大会が「少年の主張」になっているため、どうしても
いうことはあるが、理事会等もあるので、そちらの方で声が上
がっているということを伝える。

《非公開議事》

報告第12号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委
嘱について）

生涯学習課長 説明

削除

了承

その他

教育総務課長

6月の定例教育委員会の日程について

16時50分閉会